

■読みに困難のある子どもへの実践事例

マルチメディアDAISY図書を活用して、 読みに困難のある子どもたちも楽しめる 読書活動にしていく取り組み

島根県安来市立南小学校
秋田 治美

はじめに

今年度も、マルチメディアDAISY図書を活用することで、読みに困難を感じている子どもたちに本を読むことの楽しさを味わわせたり、書いてあることの要点や感想を、簡単な文章でまとめたりすることができるようにしていきたいと思います。とくに今年度は、低学年の時期に絵本に親しませることを中心に取り組みたいと思います。

全校への周知の実施

今年度のマルチメディアDAISY図書だけではなく、昨年度の図書も使用できるように、一覧にして図書ギャラリーに置き、いつでも選べるようにしておきました。

また、全校児童がそろそろ給食の時間を利用して、実物を見せながら説明を行い、周知を図りました。

活動の実態

(1) 対象

通常学級や特別支援学級に在籍し、

読みに困難を感じているためになかなか読書に向かえない子ども。

(2) 校内での活用場所

学校図書館、メディアコーナー、通級指導教室



DAISY図書のコーナー

(3) 校内での環境整備

昨年度は、メディアコーナーのパソコン4台をマルチメディアDAISY図書が使用できるように設定していましたが、今年度は、できるだけ多くの子どもたちに使用させたいと考え、6台のパソコンが使えるように設定しました。

また、子どもたちが聞くことに集中

できるように、6個のヘッドホンを準備し、それぞれのパソコンに取り付けました。

それから、マルチメディアDAISY図書に収録されたタイトルの書籍版を、メディアコーナーの手にとりやすい場所に置く工夫も行いました。

(4) 校内での活用時間

学校司書のいる業間や昼休みの時間、学校司書のいる朝読書の時間を活用しました。



朝読書での取り組みの様子

(5) 活用の実態

1学期に全校へ周知した後、3年生にマルチメディアDAISY図書の取り組みを実施しました。3年生は、2年生の2学期までは、『11ぴきのねこ』のシリーズを使って、読んだ後にあらすじや感想を書く取り組みをしていました。

3学期からは、読み物教材『愛蔵版おはなしのろうそくシリーズ』を読んでもあらすじや感想を書く取り組みを始め、3年生の1学期にも継続して取り

組みました。さし絵がほとんど入っていないお話でしたが、同じパターンで同じワークシートを使って実施したことで、どんなことをしたらいいのかわかり、見通しをもって取り組むことができたと思います。また、6月から7月にかけては、2年生での取り組みを行いました。

2学期になると、1年生での取り組みを始めました。登場してくるものや感想については、大人が聞き出し、それをワークシートに書かせるようにしました。ひらがなが曖昧な子どもについては、ひらがな表を用意して、書くときにひらがなを確認しながら書かせるようにしました。



ワークシートを書く様子

とくに、「き」や「ち」などの似たような音については、ひらがな表で確認することで正しい文字を意識させることができたと思います。子どもの中には、ひらがながなかなか書けなくて、書くことに向かいにくかった子もいま

したが、ひらがなの表を見ながらなら書けると感じ、安心して取り組んでいました。書くことがなかなか決まらない場合も、大人が聞いてくれることで書くことが見付き、意欲的に書くようとしていました。

子どもたちのワークシートは、昨年度より全員のものを掲示して見合うようにしていましたが、今年度も継続して取り組んでいます。

DAISYとしょうのかんそう

なまえ

本のだいたいの

こぐまちゃんとどうぶつえん

できたのは……

① きりん

② ぞうさん

③ ひくろ

おもしろかったところのえをかきましょう。

けらがあかちゃんをだっこしている

1年生のワークシート

どの学年でも、メディアコーナーでの過ごし方やワークシートの形式を前回と同じにしたことで、マルチメディアDAISY図書の使い方や書き方に慣れ、見通しをもって取り組めるようになってきました。

また、事前に、使用する子どもの名前を一覧表にして学級に掲示しておく

ことで、登校するとすぐに着替えて自分からメディアコーナーに行くなど、主体的に活動する姿も見られました。

〈Sさん（2年生）に見られた姿〉

Sさんは、週に1回通級指導を受けています。本を読む際、内容を理解するのに苦手さが見られました。そこで、1学期はマルチメディアDAISY図書に毎時間触れることで、絵本に関心をもたせる取り組みをしました。

回数を重ねるうちに「今日は、どんなお話かな。楽しみだな」というつぶやきが聞かれるようになりました。とくに、知っている絵本が出てくると「このお話知ってるよ」と言って、目を輝かせて聞いている姿も見られました。

2学期になると、ワークシートに「題名」「出てきたもの」「おもしろかったところの絵」を記入するようにしました。続けているうちにやり方に慣れ、見通しをもてるようになったことで、自分から進んで取り組むようになってきました。

後半になると、おもしろかったところの絵だけでなく、文章でも書こうとするようになってきました。ファイルに綴じたワークシートが増えていくことを楽しみに続けているところです。

〈Kさん（1年生）に見られた姿〉

Kさんも、週に1時間通級指導を受

けています。ひらがなは、少しずつ読めるようになってきましたが、文節や文を読むことに苦しさが見られ、長い文になると最後まで読むことに抵抗が見られました。

しかし、マルチメディアDAISY図書の画面を見ながら、音声の助けを受けて読んでいくうちに、次第に絵本に関心をもつようになってきました。ワークシートも続けていくうちに、出てくるものを意識し、ひらがなで正しく書くようになる姿が見られました。

今後は、学級担任や学校司書と連携して、日常の学校生活の中で読書指導をする際にも継続して取り組むことが有効ではないかと考えています。

まとめ

昨年に引き続き、朝読書の時間に数人ずつで活動をしたことで、それぞれの子どもの実態に合わせた支援ができたのではないかと考えています。

今年度の取り組みは、2年生と3年生は1学期に、1年生は、ひらがなをだいたい学習した2学期から実施しました。

1年生では、『どうぶつのおかあさん』のように、出てくるものや内容がシンプルで捉えやすいものを活用しました。

2年生の前半では『11ぴきのねこ』シリーズ、2年生の後半から3年生にかけては、幼年童話や『愛蔵版おはな

しのろうそくシリーズ』などの読み物を使って、あらすじや感想を絵や文にすることに取り組みました。

低学年の時期に文字を追って読むことでつまづいている子どもが、マルチメディアDAISY図書を使用することで、内容を理解して読書を楽しむことに少しでもつながったように思います。

また、ワークシートは、同じ形式のものを繰り返して使うことで、より理解が深まったと感じました。低学年の、音から文字への移行の時期にマルチメディアDAISY図書を活用することは、読書に向かう気持ちを育てる一助になるように思いました。

今後の活用と課題

学校司書や担任、学校の図書担当教員が連携をもち、絵本から幼年童話や読み物につないでいく取り組みは、今後も継続していきたいと思います。

また、関心のある子どもや支援を継続していく必要がある子どもについては、いつでも活用できるような環境づくりを続けようと思います。

教科書に載っている読み物やシリーズもの、短時間で読みきってしまう読み物などをマルチメディアDAISY化していただけると、学習とのつながりができ、自分から読もうという意欲につながるのではないかと思います。